

柏崎刈羽原子力発電所 指摘事項に対する回答整理表(工認)(基礎地盤の安定性評価)

提出年月日:2020年6月18日
東京電力ホールディングス株式会社

NO	図書			指摘日	コメント内容	回答日	状況	回答	資料等への 反映箇所	備考
1	—	基礎地盤の安定性評価について	—	2020/4/24	7号機原子炉建屋以外の建屋の今回工認モデルにおける増加重量を考慮した建屋モデルについて、重量の設定の考え方を説明すること。	2020/5/29	回答済	建屋重量及び建屋剛性について、7号機原子炉建屋の増減比率を代表として、他の解析対象建屋に適用する旨を追記しました。	KK7-027改1 基礎地盤の安定性評価について p.10,p.13	
2	—	基礎地盤の安定性評価について	—	2020/4/24	設置変更許可モデルと今回工認モデルとの剛性の比較結果を説明すること。	2020/5/29	回答済	質点系モデルの設置許可モデルと現在の工認モデルの剛性比較を示し、設置許可FEMモデルの剛性を一律で15%増加させた場合の評価結果を追記しました。	KK7-027改1 基礎地盤の安定性評価について p.9,13	
3	—	基礎地盤の安定性評価について	P.7	2020/5/29	7号機原子炉建屋の建屋剛性の設定について、設置変更許可段階及び工認段階の設定の相違点を整理して説明すること。		今回回答	建屋重量は、重力単位系から国際単位系へ変換する際の重力加速度を、設置(変更)許可モデルでは10m/s ² と設定(工認モデルにおいては9.80665m/s ²)していることを追記、建屋剛性については設置(変更)許可モデルは設計基準強度に基づき、工認モデルは実強度に基づき剛性を設定していることを追記しました。	KK7-027改2 基礎地盤の安定性評価について p.8~p.10	
4	—	基礎地盤の安定性評価について	P.10	2020/5/29	建屋モデル重量及び建屋物性値について、7号機原子炉建屋の増減比率を他の解析対象建屋に適用できるとした理由を説明すること。		今回回答	建屋モデル重量が大きい場合、地震時における慣性力が大きくなり、地盤の変形に対してはより厳しい評価になるものと考えられることから、安全対策工事物量が最も多い7号機原子炉建屋の設置(変更)許可モデル重量との比率を、他の解析対象建屋にも適用する旨を追記しました。	KK7-027改2 基礎地盤の安定性評価について p.10	